

一般質問



恐竜を題材にしたIoTの活用を

新風会・公明

乾 章俊 が問う

観光振興と芸術・文化について

Q 恐竜博物館見学を済ませた観光客の多くは他市に流れる。博物館だけでなく市街地誘客のためにも、子ども、大人も興味が湧く恐竜を題材にしたIoT等の新しい技術を活用して、例えばトリックアートや立体的に映像が見える3Dなどが楽しめる面白いスタジオを市街地に配置し、周遊コースとしては如何か。この発案は北部中学校の生徒さん達による素晴らしい提

案である。市内にはプログラミングに精通され全国に発信して活躍する民間人もいる。まずは民間の知恵と若者の発想と行動力で、恐竜を題材にした映像の芸術・文化を世界に発信する機会を設けては如何か。

A 勝山市では、デジタルスタンプリーを平泉寺や左義長まつりで導入した経験があり、恐竜のまちとしてIoTに取り組むことでまだまだ魅力向上の余地があると思われる。

さらに子どもや若者たちのフレッシュな感性やデジタル技術を活用することで新たな恐竜のアートな表現を展開し、それを観光振興につなげていくことは大変夢のある構想である。しかし、IoTの活用及び人材の確保には、それなりの経費も必要となるため、費用対効果を勘案しつつ研究していきたい。

〔その他の質問〕

● ゴールデンウィーク中の混雑状況と今後の課題について
● 下水道事業の公営企業会計への移行について



企業誘致から人材誘致に軸足を変えた取り組みをすべき

日本共産党

山田 安信 が問う

企業誘致と地元業者支援に加え、勝山市の特質を生かした人材誘致の取り組みについて

Q 勝山の特質は東京・名古屋・大阪に日帰りでき、地震・風水害に強く、自然や住環境が良く、子育て環境も抜群なことである。コマツ・YKKなどが会社機能を地方に移し、IT産業は仕事の需要は大都市圏にあるが、SEの仕事は地方でも可能である。

時代の変化をとらえて、補助金競争の工場誘

致から、勝山の特性を磨いて優秀な人材を丸ごと誘致する転換が必要。そのために「勝山はすごい」と評価される取り組みと情報発信など全庁体制の取り組みが必要。

A 先進自治体などから情報収集をすることにも、引き続き、ふるさと回帰事業により、勝山市の特質を生かした人材誘致を進めていく。

勝山市の教育環境をさらに充実することについて

Q 過疎化を逆手に取る逆転の発想が必要だ。現在の3中学校は子どもたちに目が届く抜群の教育環境なのに、統廃合は勝山の特質を台無しにしてしまう。

A 中学生の発達段階では、集団の中で多様な考えに触れ、切磋琢磨することを通じて、社会性などを身に付けることが重要であり、一定の規模の生徒集団が必要と考える。その中で、自主性を伸ばす教育の充実に更に取り組み、勝山市の中学校のアピールポイントの一つになることを目指したい。

〔その他の質問〕

● 勝山市の子育て支援をさらに充実することについて
● 公共施設の利活用について



プログラミング教育の適切な導入を

新風会・公明

下牧 一郎 が問う

小学校プログラミング教育について

Q 2020年度から小学校でプログラミング教育が全面実施される。小学校でのプログラミング教育では、「プログラミング的思考」と「情報活用能力」を育むことを導入のねらいとしている。情報社会がコンピュータ等によって支えられていることなどに気付くことができるようにするとともに、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育成し、コンピュータを活

用したりすることの楽しさや面白さ、ものごとを成し遂げたという達成感を味わうことが重要だと文部科学省は言っている。勝山市でのプログラミング教育の状況を伺う。

A 現在、勝山市では2つの小学校で、プログラミング教育に取り組んでいるが、簡易なプログラミングを体験する内容となっている。

プログラミング教育は、教科横断型教育であり、どの教科の、どの単元の、どの時間に組み入れていくかを十分検討する必要がある。そのため、市の研修会に加えて、県でも研修会が行われる。また、文部科学省等も研修用の資料やサイトを多く発信している。各学校では、それらの支援を受けながら、年間指導計画の作成作業を進めていくが、教育委員会としても、プログラミング教育が効果的な内容となるよう適切な指導・助言に努める。

〔その他の質問〕

● ゲーム障害について
● 読書バリアフリーについて